富山県子育て支援･少子化対策県民会議　議事概要

１　日　時　　平成 30 年 1 月 18 日（木）10:30～12:00
２　場　所　　富山県民会館 8 階　バンケットホール

３　委員発言要旨

（A 委員）
・人生設計の中で結婚や子どもを持つということは、以前はライフスタイルの一角だったが、今は選択肢になってきてしまっている。
・小さいころから育つ環境の中で、結婚、出産、子どもを持つということに対して、どういうふうに取り組んでいけばいいのかということが大事。
・「次世代を担う若者への支援」や「子育て支援の気運の醸成」に力を入れてほしい。

（B 委員）
・イクボスについて、施策としてはよいが、中身が伴わないと具現化できないので、これについてぜひガイドラインを作成してほしい。
・ガイドラインの中身として、1 つは、イクボス宣言をした会社に対して、担当・推進役を 40 代のロワーマネジメントの方にすること、もう 1 つは、子育て中の若い男性の家事・育児に対する意識を変えるため、若手のロワーマネジメントの方たちがチームを組んで、具体案を出していくことを提案したい。

（C 委員）
・富山県にはすばらしい制度がたくさんあるが、なかなかその制度をわかってもらっていない。
・施策について、どれだけ効果が上がっているか評価をしていただきたい。
・産婦の居住地にかかわらず、県内の全ての市町村で等しく産後うつの予防のための健診費の助成を受けることができるように、県が主導して市町村の産後ケア事業を引き続き推進してほしい。
・少子化に歯止めがかかっておらず、生涯未婚率も上昇している。若者の経済的な安定も必要だが、結婚、妊娠、出産、育児に関する意識改革も必要。

（D 委員）

・保育人材の確保について、高等学校や中学校における様々な取組みが人材の幅を広げ、子育て支援の幅を広げることになる。
・ファミリー・サポート・センターのような地域で支えあうサービスを活用しながら子育て支援に取組んでいくことも大切。
・保育、幼児教育の質の向上について、厚生行政や教育行政の枠を越えた一体的な取組みや産官学の取組みが必要。
・富山県では昨年から企業子宝率調査を実施しており、調査の結果、モデル企業が選ばれている。そのモデル企業やモデルとなる業種、分野に倣って、その他の一般の事業所も職場環境の改善に努められるように、企業子宝率調査についても今回の報告書に盛り込んでほしい。

（E 委員）

・「14 歳の挑戦」は、橋本左内の「啓発録」に始まる。
・どういう形で人材育成するのか、あるいは人材育成以前の問題として、「子育て」や「子孫を継承していくこと」の大切さを教育の場や地域社会に出て経験をさせた方が良い。
・「14 歳の挑戦」の経験が、将来の職業選択や経済的な安定感を持つことにつなげてほしい。

[参考]

「14 歳の挑戦」の活動内容、事業の実績等の詳細は、県教委の HP に掲載しております。

（F 委員）

・母子家庭や貧困の家庭など、いろいろな家庭事情があって、子どもたちが父親や母親の愛情をいっぱい受けて育っていくといった家庭環境からはほど遠いような状況にあるのを日ごろ感じている。
・放課後児童クラブは、みんなで遊んだり、先生から勉強を教えてもらったり、本来家庭がやるべき役割を部分的に担っていると感じている。
・放課後児童クラブにできるだけ多くの子どもたちが入れるように、時間の延長や対象の学年を広げるなどしてほしい。そうすることで、働く女性にとっても子どもたちにとってもプラスになるのではないか。

（G 委員）

・富山県がこれまで力を入れて、保育施設の整備や、夜遅くまで子どもを預かれるように環境を整えてきていること自体はとてもいいことだが、保育環境を充実させればさせるほど、母親や父親の子どもと一緒に過ごす時間がますます減ってしまう。

・女性がもっと子どもを産みたい、子育てが楽しいと思えるのは、余裕があってこそだと思うので、父親に家事育児を母親のお手伝いとしてではなく、一緒にやってもらうことが大事。

・長野県の「信州やまほいく認証制度」による自然保育のように、富山県でも県独自の保育・教育を支援する制度を導入してほしい。

（H 委員）

・この報告書について、方向性としては妥当な内容ではないか。

（Ｉ委員）

・いろいろな制度、施策について、それなりの成果が上がってきているのではないかと感じている。この後は、制度、施策の周知、活用することがとても大事。

・三世代同居や家庭での子育てを支援している市町村もあるので、そうした部分にも目を向けてほしい。

・子どもを産みたいと思ってもらうためには、子どもと一緒にいることの楽しさがわかることがとても大事なことであり、子どもを持つ喜びをどんどん外へ向かって伝えていく場面が必要。

（J 委員）

・富山県には働く女性は多いが、管理職になる女性は全国的にみても少ない。子育てや家事は女性がするものという意識が、まだ当たり前になっている県であるということをすごく感じる。

・富山県のイクボス宣言に出てくる方は全部男性で女性が出てこない。女性のいい例も欲しい。

（K 委員）

・病児・病後児保育はどんどん増えてきており、県内に 130 か所あるが、地域によっては１カ所しかないなどの偏りや、保護者が通勤時に利用するにはとても遠い場合がある。

・本来であれば、病児・病後児保育事業の実施施設が病院の横にあれば一番よい。

・地域子育て支援センターの数が少ないので、地域の中に、元看護師や元保育士が在中する地域子育て支援センターのミニ的なものがあればいいと思う。また、その運営に対する助成についても考えてほしい。

（Ｌ委員）

・放課後児童クラブは、異なる年齢の子どもたちが、それぞれの学年に応じて役割を分担しながら活動していくのが本来の目的だが、それが忘れられている。子どもの数が少なくなり、子どもが大事にされるほど、子どもが取り組むべき役割を取り上げているように思うことがある。

・低学年だけではなく高学年の子どもも放課後児童クラブで一緒に活動できるようにし、いろいろな経験・体験をしてもらうと、その子どもたちが親になったときの感覚も随分違ってくるのではないか。

（M委員）

・イクボス企業同盟の取組みをこれから具体的にどのように進めていくかが一番重要になってくる。

・働き方改革の中で育児を選択することについて、企業の中で評価されていくような環境づくりをしていかないと、男性の家事・育児への参画を一層促進する具体的な内容にたどり着かないと感じる。

（N委員）

・子育ての楽しさをどうやって保護者に感じてもらうかが重要。

・制度はしっかり充実させながらも、今度の教育・保育の無償化と（子どもにとって本当によいことは何かを）どう関連づけていくかを真剣に考えてほしい。

・制度が充実し、子どもを預ける方向だけがどんどん進んでしまっている。子育てが楽しいとか、子どもと一緒に過ごす時間をどうするかということについてもっと真剣に考えなければいけない。

（Ｏ委員）
・大変充実した内容であるので、これが進められていけば、子育てがしやすくなっているという意識が高まると思うが、本来の（家庭や地域での）子育てのよさをもっと充実させていくような施策をもっと進めてほしい。

（Ｐ委員）
・施策や取組みを周知することが一番重要なのではないかと思う。
・子育てをしていく上で一番大事なのは親子の時間をもつなどの家庭環境だと思う。「親学びプログラム」などを PTA 活動の方で周知して、親同士のコミュニケーションを通して家庭環境を向上させるような取組みを進めていきたい。

（Ｑ委員）
・保育サービスが充実してきたことに伴い、放課後児童クラブでも同程度のサービスが求められるようになってきている。
・保育の質を充実させることで、保育士が仕事にやりがいを感じていく。そしてそのことが保育士不足を解消し、仕事と子育ての両立支援につながっていくと考えている。

（Ｒ委員）
・家庭で子育てする場合、０～２歳児に月３～６万円を支給する制度は、結果として保育士の人件費削減につながっている。（保育所等に）預けるだけではない取組みとして、他の自治体から視察に来るくらいのよい取組みとなっているので、今後も進めていきたい。
・先進国の中で、日本の子育てに対する投資は低い状況である。ぜひ、部会等での意見を新年度当初予算にしっかり盛り込んでいただきたい。
・子育て支援について市町村間でかなり温度差がある。予算編成の際、市町村間レベルの平準化を含んだもので、予算の調整をお願いしたい。

（Ｓ委員）
・富山県の支援について、男性が素直に知り、学習する必要がある。
・ホームページ上に危機感をあおる表現がたくさん出てきていたように感じるので、外に出すときは、もう少し夢を追いかけるような表現がちりばめられて

いるほうが、受け手としては気持ちのいいものなのではないか。

（T 委員）

・子育ては社会全体で行うものであり、学校、家庭、企業、そして県など行政に支援をしてもらう必要がある。
・子育て支援について市町村間で温度差がある。すべての子どもが等しく支援を受けることができるようにしてほしい。

（U 委員）

・インターネット時代になり、さまざまな情報があふれかえっているので、正しい情報、これは間違いないというようなものをもっと出していく積極性が行政には必要。
・計画や施策がなかなか周知されておらず、市民、県民に届いていない。また、県のホームページ、市町村のホームページを見ても市民、県民に役立つ情報が最初に出てくる形になっていないので、検討を進めてほしい。